

水稻収量の底上げに向けた関係機関との連携

～基幹作物増収プロジェクトの活動展開～

活動年次：令和2～4年

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

1 課題設定の背景



基幹作物の作付面積及び産出額の維持

一戸当りの作付面積拡大

- ☆省力化栽培技術の普及
- ☆農地流動化の促進

既存農家の経営維持

- ☆低収農家に対する支援

新規就農者の増加と定着

- ☆農業総合支援センター設立
- ☆技術習得に向けた支援



低収農家の経営改善に向けた支援体制を強化することを目的に、JAと普及センターで「**基幹作物増収プロジェクト**」を立ち上げた。令和2年度から水稲・小麦・かぼちゃの低収農家を対象に支援を開始！

2 活動の経過

活動体制

【総括】 JA 営農販売部 部長・次長

【小麦A班】 対象農家4戸
JA ②(30代～)
普及 ②(馬着専主・守屋)

【小麦B班】 対象農家3戸
JA ②(30代～)+①(20代)
普及 ①(阪村主査)

【水稲班】 対象農家6戸
JA ②(30代～)+②(20代)
普及 ①(守屋)

【かぼちゃ班】 対象農家3戸
JA ②(30代～)+①(20代)
普及 ②(山崎係長・寺前普指)

活動期間

1戸に対する支援期間は3年間、PDCAサイクルを意識した活動展開

1年目 (R2)

- ☆信頼関係構築
- ☆問題点の把握

2年目 (R3)

- ☆適正技術の実践
- ☆収量の向上

3年目 (R4)

- ☆適正技術の定着
- ☆収量の安定化

対象農家
入れ替え

R3 水稲班の動き

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 【3月】農家面談 (延べ6回) | 問題点整理と計画作成 |
| 【3～5月】育苗・移植巡回 (延べ27回) | 管理状況確認・改善提案と実施確認 |
| 【6～9月】本田巡回・生育収量調査 (延べ48回) | 管理状況確認・改善提案と実施確認 |
| 【11月】農家面談 (延べ6回) | 問題点の洗い出し・次年度の課題整理 |

R3 全体の動き

- | | |
|-----------|------------------------|
| 【4月】全体会議 | 対象農家について情報共有・活動方針の共有 |
| 【7月】全体会議 | 各班の進捗状況の共有 |
| 【11月】全体会議 | 各班の活動成果の発表・対象農家の入れ替え検討 |

対象農家の収量・販売額UP

農家面談で問題点の整理と改善策の提案

提案事項の実践に向けた農家巡回



☆農家と意見交換を行いながら改善に向けた計画を作成



☆改善で見込まれる効果を説明
☆巡回や調査は常にJAと実施
→改善事項への理解が深まり、「応援されている」意識が向上
多くの提案事項が実践される！

班内での情報共有と農家との会話効率向上

改善結果の「見える化」

日時 4月 2年目

6月9日巡回

- 移植は5/24~27で実施。計画より遅く、12mmで実施。スリップはしてのこと。苗取量が130mmではなく140mmにたか、田植え機をセットした際に苗が8割れていたことが原因と見られる。
- 施肥量は標準通り実施(3/24参照)
- 播種作業の後に均平していないため、水溜にはつつきがあるとのこと。
- 調査地点は圃場B(播種4/22、移植5/26)と圃場D(播種4/22、移植5/26)とする。どちらも品種はななつぼし。
- 圃場Bの苗質は以下の通り。
- 育苗日数: 34日 移植時葉齢: 3.5葉
- 葉齢高: 2.3cm 移植時草丈: 12.9cm
- 苗質は良好だが、育苗日数が予定よりも延びてしまった。
- イネミソウムシ多発。葉が白くなっており、液

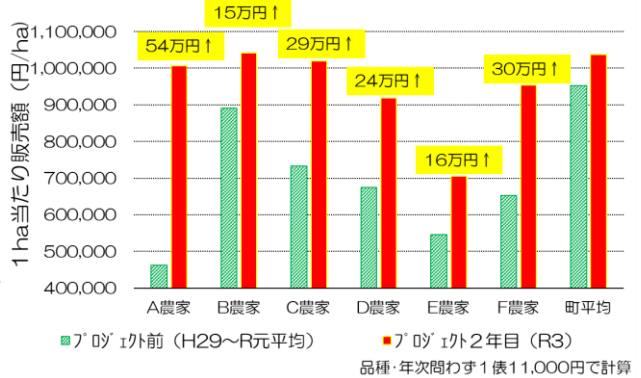
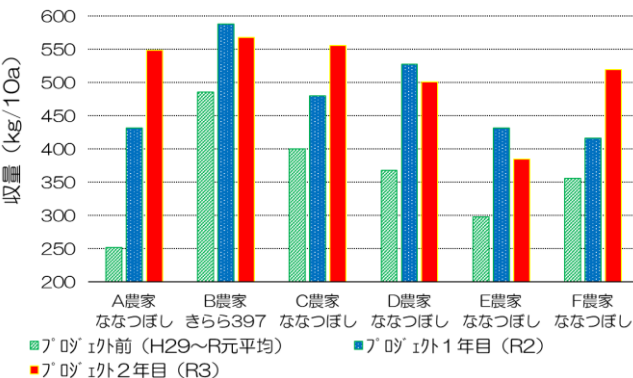
☆農家との会話内容や次回巡回で話すべき事項を「活動記録シート」を用いて班内で共有
→聞き取りの漏れがなくなり、農家との会話効率が向上！

☆計画どおりに改善できたのか、改善結果はどうだったのかを「チェックシート」で報告
→改善効果を実感してもらえた！



JA出荷実績収量

1haあたり販売額



活動方針の統一でプロジェクトの「質」向上

プロジェクト1年目 (R2)

- JA若手職員 (20代) の参加ゼロ
- 調査だけで農家と会話がない班があり活動の進め方がばらばらだった

全体会議で議論



プロジェクト2年目 (R3)

- ☆各班にJA若手職員を配置
- ☆全班で「活動記録シート」を導入
- ☆農家の声を聞く活動展開を目指す



- ◎ JA若手職員の営農指導能力が向上した
- ◎ 「活動記録シート」で他班と進捗状況の共有ができるようになった
- ◎ 全班が農家の意識変化を確認しながら活動できるように変化した

1年目 (R2)
☆信頼関係構築
☆問題点の把握

2年目 (R3)
☆適正技術の実践
☆収量の向上

3年目 (R4)
☆適正技術の定着
☆収量の安定化

対象農家
入れ替え

3年間の成果を
地域へ報告